

テーマ「こどもの安全と健康のための環境」

■開催概要

開催日：2005年4月22日（金）～24日（日）

会場：建築会館（東京都港区芝5-26-20）

後援：国土交通省、文部科学省、厚生労働省、環境省、(社)日本建築学会、(社)日本都市計画学会、(社)日本造園学会、日本発達心理学会、(社)日本体育学会、日本保育学会、日本子ども社会学会、日本安全教育学会、人間・環境学会、(社)日本ユネスコ協会連盟、(財)日本ユニセフ協会、IPA日本支部、日本子どもNPOセンター、(財)国際交通安全学会、(社)日本公園緑地協会、(財)公園緑地管理財団、(財)都市緑化基金、(財)都市緑化技術開発機構、(社)全国建設室内工業協会、(社)都市計画コンサルタント協会、(社)日本造園建設業協会、(者)日本公園施設業協会、(社)日本建築家協会（順不同）

◆参加者数：約1,000人（3日間の延べ参加者数）  
22日エクスカッション参加者：約100人、23日国際シンポジウム参加者：約250人、24日シンポジウム参加者：約200人、23日～24日分科会（6つの合計）参加者：約300人、23日～24日中庭ポスターセッション＋スピーカーズ・コーナー参加者：約150人／ポスターセッション発表数：32点／団体展示参加：30団体

■第1日：4月22日（金）

◆エクスカッション

こども主体の運営を試みる施設の事例として、町田市玉川学園「ころころ児童館」、杉並区児童青少年センター「ゆう杉並」、世田谷区「羽根木プレーパーク」を視察。参加者52名。

◆野外パーティー

海外からの講師を歓迎して羽根木プレーパークのご協力を頂き、野外パーティーを開催しました。参加者約60名。



■第2日：4月23日（土）

◆会長講演：「こどもの成育環境と安全なデザイン」

仙田満（東京工業大学名誉教授）

◆基調講演：「こどもたちと路上戦争」

イアン・ロバーツ（ロンドン大学教授）

◆国際シンポジウム『こどもの安全と健康のための環境』

コーディネーター：織田正昭（東京大学教官、本会副会長）

- ①「韓国のサイバースペースにおけるこどもの発達と安全に関する問題点」 イ・スンヒョン（ソウル大学教授）
- ②「ストリート・チルドレン」 アリ・モアザム（東京大学客員研究員）
- ③「技術文明社会におけるこどもの健康増進とスポーツやフィールドワークの意義と役割」 福岡孝純（東京農業大学教授）
- ④「安全で健康なこども環境に向けて」 スーザン・メルカド（WHO神戸センター）



□パネルディスカッション

上記講師に福留強（聖徳大学児童学科教授）、イアン・ロバーツ（前掲）、仙田満（前掲）らが加わり会場とも意見交換する中で、こどもの安全と健康のために、国際的な連携の中で、環境改善につとめる必要性を確認しました。

■第3日：4月24日（日）

◆特別講演：「わが国の母子保健の流れと今後の展望」

平山宗宏（日本子ども家庭総合研究所所長）

◆こどもシンポジウム『こどもから大人へのメッセージ』

14歳から19歳までのこども15人が意見表明者として参加し、自分の考えや大人社会への意見を述べる中で、こどもの主体性の尊重が望まれると同時に、今日の社会環境をつくってきた大人の責任が問われました。

◆フロアセッションおよび総括

分科会など大会で提議された問題点を整理し、大会の総括として提言をまとめることが確認されました。これにもとづいて、理事会において提言をまとめ、5月1日に発表しました。（「2005年大会提言」については裏面をご参照下さい。）



■23日（土）～24日（日）

◆分科会

①安全で楽しいあそび環境づくり、②こどもが事故にあわないまちづくり、③住環境と母子の健康生活、④環境としての学校、⑤こどもを犯罪から守るまちづくり、⑥こどもと情報文化環境。以上6つのテーマが取り上げられ、それぞれの問題に取り組む方々からの話題提供と提言にもとづいて参加者による議論がなされました。

◆ポスターセッション

「学校・自然」、「情報・社会」、「医学系・育児」、「遊び場・活動」など、32題が発表されました。また、企業からは4題の協賛展示がありました。



◆団体参加とスピーカーズ・コーナー

NPOなど30団体の展示参加があり、スピーカーズ・コーナーでのNPOやこどもたちの発表も行われました。



## こどものための安全で健康な環境づくりに向けて



こども環境学会  
Association for Children's Environment

近年、事故や犯罪被害への懸念から、こどもたちの自由なあそびや行動を制限し、地域社会から隔離する傾向が見受けられます。こうした社会的傾向は、こどもたちの成育にとって必ずしも良いものとはいえません。生活における安全や健康の観点から都市および社会環境を見直し、事故や犯罪が発生しにくい環境を構築することこそが急務です。

こども環境学会の2005年大会では、「こどもの安全と健康のための環境」について海外の研究者やこどもたちも参加して議論し、こうした問題に対して国際的視野に立った連携の必要性和同時に、こどもたちの声にも耳を傾けるなかで、現在のこどもを取り巻く環境をつくってきた大人の責任が大きく問われていることを確認しました。こどもは安全で健康に生活する権利を持っており、こどもたちの参画も図りながら、大人はこれを保障する義務があります。

こうした大会での議論をふまえて、こども環境学会では、こどものための安全と健康な環境づくりに向けて、以下の5点を提言し、賛同いただける方々にこれらの推進を呼びかけます。

2005年5月1日

こども環境学会 会長 仙田 満  
同 大会実行委員長 福岡 孝純

### 1. あそびやスポーツ活動などの活性化と安全を図るために、 公園へのプレイ・ファシリテーター（屋外活動支援員）の配置を推進しよう。

少子化や情報化などに伴う家族のライフスタイルの変化、事故や犯罪への危惧、室内あそびへの志向などが、こどもたちを公園などでの外あそびから遠ざけています。こどもの安全能力や健康を育む外あそびを活性化するためには、公園整備だけでは不十分であり、こどもたちのあそびやスポーツなどの屋外活動を支援し、地域の人々を活動へ誘う役割を持つ人の配置やネットワーク化が必要です。

### 2. 生活道路の車両交通を制限し、 こどものあそび空間、地域コミュニティ空間としての道を再生しよう。

かつて道はもっとも身近なあそび空間であり、地域コミュニティ活動の場でした。都市化による車両交通の増加が、道からこうした機能を奪ってしまいました。ヨーロッパでは歩車共存道路化によって、交通事故の8割が減少した例もあり、生活道路の50%以上に時速30km以下の交通制限を設けている都市もみられます。こどもを交通事故から守り、道あそびと地域コミュニティを活性化するためには、道路交通の制限が必要です。

### 3. こどもの安全と健康の視点に立ち、 こどもの成育にふさわしい住環境を再整備しよう。

経済性や効率性を優先する都市開発のなかで、今日の住環境にはこどものための空間は十分に整備されておらず、安全や心身の健康も確保されていません。住居内や建築・都市におけるこどもの事故は繰り返し発生していますが、事故の多くは予防が可能です。そのためにはこどもの安全と健康の視点に立った住環境の再整備が必要です。

### 4. 学校や地域の安全を確保するために、 学校を拠点とした地域コミュニティ活動を推進しよう。

学校を閉鎖的にすることによってこどもたちの安全を確保しようという傾向がみられますが、安全は、地域社会全体の中で保障されるべきものです。学校を拠点として地域コミュニティ活動を推進するコミュニティ・スクールなどによって、地域と学校におけるこどもたちの安全を図る必要があります。

### 5. こどもを過剰な情報刺激から守り、 情報に対して受身型の生活に陥ることがないように見守ろう。

今日の過剰な情報刺激は、こどもたちの心や感性に大きな影響を与えており、情報に対して受身になったり、実体験との区別がつかなくなったりする危険性を内包しています。情報メディアがこどもを束縛する側面とこどもの知性や感性をひらく側面の両義性について理解し、過剰な情報刺激からこどもたちを守る必要があります。

## Toward safer, healthier environment for children

Recently more restriction has been put on children's free, active behaviors for fear of accidents and crimes, having children isolated from local community. This is no desirable.

It is a pressing need to construct an accident-free, crime-free environment by reconsidering urban-, social-environment in terms of children's safety and health. The Association for Children's Environment discussed in its 2005 annual meeting the safe, healthy environment for children, involving foreign scientists and children. It emphasized the necessity of further international collaboration on the issue, and confirmed over the discussion in the children's symposium that adults are called to account, for having made undesirable environments for children. Every child has a right to live a safe, healthy life, and every adult bears the responsibility for ensuring the right.

Based on the discussion at the meeting, the Association hereupon proposes the following five points, and appeals them to all the persons concerned

**1. Promote placement of play-facilitator, an outdoor play supporter, to a park to promote children's play and sports**

Children have been kept away from outdoor plays as those in the park, due to the change in their life style, worrying accidents and crimes, and children's inclination for indoor play. In order to activate outdoor play, which helps nurse children's safety ability and health. Not only the improvement of park but placement of facilitators and the networking among them are necessary which serve children's outdoor activity and encourage community people to be involved in the local activity

**2. Put restriction on the traffic on a life road, and regenerate the street as a space for children's play and for local community.**

A street used to be the most familiar space for children's play and also the place for local community activity. Increase in the traffic with urbanization has deprived them of the street. In Europe there are cities where traffic accidents decreased by 80 percent after introduction of car-pedestrian coexistence road and those where speed-limit of 30 km/h over 50 percent of life road is introduced. It is necessary to put restriction on the traffic to protect children from traffic accidents and to regain children's play on the road and the local community on the street.

**3. Improve living environment for children's growth from the standpoint of their safety and health.**

Children's living environments nowadays are not fully improved nor are ensured their safe and healthy lives in the urban development where economy and efficacy are given a priority. Children's accidents occur repeatedly in the house, in the city, though most of them are preventable. There is a strong need to improve living environment in terms of children's safety and health.

**4. Promote school-based local community activity in order to ensure the safety of school and the community.**

School children nowadays tend to be isolated in the school for their safety, but the safety should be ensured by the community. School-based activation of local community as "community school" should be enforced for the safety of children at school and in the community.

**5. Protect children from excessive information, making them not to live a passive life against information.**

Too much information definitely affects children's mind and sensitivity. They become passive/receptive to information, can't distinguish virtual reality from real world. It is important to understand that the information media have a tie-down effect on children while it can cultivate intellect and sensitivity of children. Children therefore should be protected from excessive information.

The Association for Children's Environment  
Dr. Mitsuru Senda, President,  
Dr. Masaaki Oda, Vice president,  
Dr. Toshiyuki Shiomi, Vice president  
Dr. Takazumi Fukuoka, Chair, Executive committee of 2005 annual meeting